

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社エムエス		
事業所名	グループホーム 私とゆかいな仲間		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4129番地1 (電話) 0954-42-1211		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 21 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 25 日

【情報提供票より】(平成21年1月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 7人	非常勤 1人 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,450 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	735 円	

(4) 利用者の概要(平成21年1月21日現在)

利用者人数	8	男性	0名	女性	8名	
要介護1	3	名	要介護2	1	名	
要介護3	3	名	要介護4	1	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88.5 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うれしのふくだクリニック	福田病院
---------	--------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの温泉町で知られる嬉野町の温泉街から少し離れた住宅地の中にあり近くには郵便局、スーパー、公園等もあり、地域で普通に暮らすための立地条件を備えている。母体医療機関で認知症高齢者の対応について話し合いがされるなかで設立された経緯もあり、医療機関と併設されたホームは健康管理、病状不安定等、緊急時における協力体制が構築されており、入居者、家族にとっても安心感がある。また、入居者それぞれの生活歴、意思を尊重した、穏やかで楽しみのある生活ができよう工夫を重ねられているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での施設、地域とのかかわりを主な改善課題とされていた。どちらについても現在のところ継続検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目については全職員が理解、確認し、改善できる点については改善に向けて取り組み、努力している。自己評価についても全職員の意見がまとめられていた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>討議内容についてはその都度、議題を設定しているが、自己評価、外部評価等は継続的に検討課題となっているので、運営推進会議が自己評価、外部評価の改善に向けてのモニターとしての機能を担う事が期待される。また、入居者の地域行事への積極的参加に向けて地域との連携が期待される。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に重要事項説明書にグループホーム内外の苦情相談窓口を掲載されている。日頃から入居者、家族とコミュニケーションを積極的に図る関係を心がけており、意見があった場合には苦情処理体制に従って改善されている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に挨拶、声かけ話される程度で、地域の行事等への参加はされていない。今後可能な限り入居者の地域活動への参加を期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の一文に「地域の方々と交流できるようにいたします。」というグループホーム独自の運営理念を掲げ、玄関、食堂、スタッフルームに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等の際に理念の中身を理解するよう管理者、職員で話し合い、確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、通院時に挨拶や声掛けは行われているが、地域行事への参加は行われていない。	○	ホームが地域の一世帯として、入居者が地域の行事へ参加したり、近隣住民の受け入れや交流の機会を作る工夫が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を全職員で理解し、改善すべき点は改善するように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度、議題を設定し参加者とともに話し合い、家族の意見や行政の考え方や日頃の疑問等を尋ねる事ができ、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、必要時は市との連携も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月必ず手紙を出し、状態変化時はその都度は電話をする等、健康状態を中心に現金出納報告を添えて近況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時は、極力お話をして意見を聞くようにしている。また、契約時に施設内外の意見、不満、苦情の受付窓口を伝え、意見などがあつた場合は苦情処理体制に従って改善されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にし、馴染みのある職員でケアができるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の母体病院での勉強会や外部での研修会にできる限りの出席を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の発起で同業者の顔合わせが1度行われたが、以後途絶えている。必要時は個々に情報交換が行われているが、相互訪問、職員と地域の同業者との交流は行われていない。	○	地域同業者のネットワーク、勉強会等を行い、交流の成果をもってサービスの質を向上させることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めは短時間経過してもらいなど本人が安心して生活していけるように相談しながら工夫している。また、自宅で使用していた食器や写真など自由に持ち込まれ、雰囲気馴染めるような工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にし、個性や力、本人の意向を引き出し、入居者の立場に立ったケアを重点にコミュニケーションをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活、会話の中から、いつも口にされる言葉、声を掛けて喜ばれる言葉、してほしい事、してほしくない事、好きな食べ物、何をしがたがっていらっしゃるか等を一覧表にまとめ、気づきがあるごとに更新し、思いの把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングをもとに家族との話し合い、職員の意見を反映した、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じた見直しが行われ、問題が生じた時は家族、職員との話し合いで現状に応じた計画作成ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の意見を聞き、健康管理、受診、リハビリ等の対応ができるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、母体病院をかかりつけ医としている入居者が多いが、希望があれば他医療機関の受診も可能である。体調の変化があれば、すぐに連絡し、受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢、重度化した場合の看取りについては管理者、全職員間の話し合いはなされており考え方については共有しているが、入居者、家族への早い段階での意思確認はできていない。	○	看取りに対する入居者、家族の意思確認し、話し合いをできるだけ早い段階で行う事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーは尊重され、個人情報の取り扱いについては同意書を取り、同意書に基づいた取り扱いをしている。また、重要な書類は事務所で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペース・希望に添うよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にできる事を無理のない形で自分の仕事として準備、片付けなど職員と一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に応じた声かけ、促しで楽しみに入浴されている。入居者はほぼ毎日午前中入浴されている。状態、気分に応じた時間帯の入浴についても弾力のある対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のそれぞれの能力を活かすよう、季節に応じた、食堂の飾り付け、食後の片付け、洗濯物をたたむなど自分の仕事としてされている。職員の「ありがとう」に喜びの表情が見られ、散歩など希望に応じ、職員と一緒にいき気分転換できている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、気分に応じ、近所の公園まで職員と一緒に散歩に出かけるなど気分転換に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関からすぐ階段を上がり2階の扉を開くと入居者の居住空間である。2階の入り口扉は施錠され、外出、受診、家族の訪問時等は解錠されている。	○	2階の出入り口については転倒、転落防止の安全策を講じ、入居者にとって閉塞感のない自由で安心感のある生活の提供が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者の状態に応じた避難方法について日頃から話し合い、居室入り口に表示をする等併設医療機関との協力体制は取られているが、地域の人々に対する協力依頼など具体的には行われていない。	○	運営推進会議等を活用し、緊急・非常時の近隣地域住民への日頃からの協力依頼が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体医療機関の栄養士による献立作成が行われている。入居者の状態、希望に応じた、調理方法などが工夫され摂取量の確認、記録を行い、水分摂取についても適宜促し、手元にセットする等配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けがなされ、エアコン、加湿器等を設置し、不快な音も臭いもないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物を持ち込むよう家族と相談をし、写真や私物や好みのものを飾る等している。		